

氏名	藤澤 智雄
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	甲第285号
学位授与年月日	平成19年4月11日
審査委員	主査 教授 田中 恒夫 副査 教授 富岡 治明 副査 教授 坂野 勉

論文審査の結果の要旨

H2 受容体拮抗剤 (H2RA) は連続投与を行うと、その酸分泌抑制効果が減弱するトレランス現象がみられることが知られている。しかし、*Helicobacter pylori* 陽性者において、このトレランス現象がおこるか否かは明らかではなかった。また、カルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) を介した胃酸分泌抑制作用を有する H2RA であるラフチジンにおいても、トレランス現象に関する検討の報告はなかった。本検討では、健常ボランティア 20 名 (*H. pylori* 陰性者 13 名、*H. pylori* 陽性者 7 名) を対象とし、クロスオーバー法にて 15 日間のファモチジン 20 mg およびラフチジン 10 mg の朝夕 2 回投与を行い、1 日目と 15 日目に胃内 pH モニタリング検査を施行した。その結果、*H. pylori* 陰性者ではファモチジン投与、ラフチジン投与において、15 日目には 1 日目に比して胃内 pH4 未満時間の有意な延長と胃内 pH 中央値の有意な低下が観察された。一方、*H. pylori* 陽性者ではファモチジン投与、ラフチジン投与においても、15 日目における胃内 pH4 未満時間の延長、胃内 pH 中央値の低下は認められなかった。以上の結果より、H2RA 連続投与中にみられるトレランス現象は *H. pylori* 陰性者において特徴的にみられ、*H. pylori* 陽性者では認められない現象であることが明らかとなった。